

Akatake Times

Vol. 58
(通算 第211号)



明けましておめでとうございます
本年もよろしく願っています

◆ 「甲辰年」

2024年甲辰年(きのえたつどし)を迎えました。
社員皆様とご家族のご健勝とご多幸をお祈りします。
甲辰年は、新しいことに取り組むと成功する、また、今まで取り組んできたことが形となるそうです。
公私ともにそうなるといいですね。

◆ 「好事魔多し」

わが社は第一四半期を経過しました。
皆さんの奮闘の甲斐あって順調に推移していることは喜ばしく、感謝しています。
が、「好事魔多し」といって突然不測の事態が起こるやもしれません。
「悲観的に準備し、楽観的に対処する」ことを心がけてください。
昨年は思いもよらぬ事態が発生しましたが、最悪の事態とならずに済んだことは幸運でした。
考えられる再発箇所を想定し、再発防止策を行ったことは今後生きてくるでしょう。
また、まさかの不適合も発生しましたが誠意ある迅速な対応の結果、顧客の信頼が増した事例もありました。
これらを振り返った時、悲観的に準備していたかを問うてみるのが肝要ではないかと思えます。

◆ 「報徳の教え」

(これをメモした時期は忘れましたが)帝国データバンクが創業100年以上の老舗企業4000社を対象としたアンケートによると、家訓・社訓がある企業は78%にのぼり、その共通点を分析したところ、5つのキーワードが浮かび上がり、見事にカキクケコになったとのこと。
商売の基本ですね。
[カ>感謝 キ>勤勉 ク>工夫 ケ>節約 コ>貢献](堀内永人著「報徳の教え」から一部抜粋)

◆ 「優良企業の経営者」

伊那食品工業の塚口寛会長(現最高顧問)は言います。
『一般的に急成長する会社は優良企業と評価する傾向にありますが、これは大変な間違いです。
急成長の多くは自分の力ではなく、時流に乗っただけであります。それを自分の実力だと思っている経営者がこれは危険であります。業績は少しずつ伸びることが理想であります。会社の業績が少しずつ伸びていけば、人も設備も会社の成長に間に合いますが急成長しますと社員の成長がこれについていけません。その結果、取引先の信用を失うなど必ず多くの問題が発生し、やがて景気が冷え込んで業績が急降下します・・・』
「かんてんばば」で有名な、まさしく優良企業の経営者の含蓄のある言葉です。

◆ 「二宮尊徳の教え」

このところ大企業の不祥事が多い。
まさに二宮尊徳の言うところの「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」。
大であろうが小であろうが経営者は肝に銘ずべきだ。
さて、今年の経済情勢はどうなるのでしょうか。
ウクライナ情勢、イスラエル情勢などの地政学的リスク、不動産市況の悪化による不良債権の増加など海外経済の不透明感や建設コストの高騰で設備投資を先送りする懸念がありますが、総じて2024年も設備投資の拡大が見込めるようです。
設備投資や業務効率化によって労働生産性の改善が続くようです。
併せて極めて重要なことは、少子化が進む中で企業のみならず国家的に労働力の質を高める取り組みを果たしていかなければ事業の継続性は難しい。
働き手1人1人が自らの能力を高めていかなければ日本の生産性は上がらないと有識者は言っています。

ご安全に！